

学校だより



令和2年 4月 7日
横浜市立二谷小学校
校長 石川 秀子

未来日記を書こう

学校長 石川 秀子

令和2年度が始まりました。柔らかな春の花々の中、昨日の入学式では66名の新1年生を迎え、二谷小学校の新しい一年間がスタートしました。教職員一同で新学期の始まりに向けて準備を続け、学校再開に向けて動いていましたが、明日からまた臨時休業となりました。

見通しが持てない中、子どもたちも保護者の皆様方も不安に思われることも多いかと思います。市教育委員会からの情報をもとに、今できることに取り組んでいきたいと思ひます。

どのような状況であれ、新学期はワクワクする心躍るスタートです。とりわけ子どもたちにとって、新しい教科書や新しい教室、クラス替えをした友達と担任との出会いから、新しい活力を生み出してほしいと願う新年度初めです。

さて、「はれ ときどき ぶた」は、主人公がお母さんをびっくりさせてやろうと書いた日記の内容が、どんな破天荒なことでも実現してしまうという楽しい童話です。今まさに、そんな日記が欲しいと願ひます。「明日も、普通に学校に行きます。学習したり、友達と話したり、手をつないだり、楽しく歌を歌ったりします。」…… 「はれ ときどき ぶた」(矢玉四郎昨)の主人公 畠山則安(十円やす)さんならば、どんなことを日記に書くでしょうか。

予定が立ちにくい今の時代だからこそ、子どもたちとともに「未来日記」をつけていきたいです。今は試練の時ですが、学校が子どもたちの未来を切り開く力を育てる場所であることに変わりはありません。それぞれが感染症拡大を防ぐために、今できることに取り組むことが大切です。そして、今、感染拡大を防ぐために努力している方々を支え、病と闘っている人々への理解と共感を基盤に、感染拡大を防ぐ行動を取ってきましょう。地域、保護者の皆様もどうぞ健康にお過ごしください。

子どもたちが明るい挨拶を交わし合い、ありがたうの感謝の言葉が行き交う日常が取り戻せるまで、まだしばらく時間はかかるかもしれませんが、子どもたちが、学校でも地域やご家庭でも成長し続けられるよう、皆様とともに取り組んでまいります。地域の皆様、保護者の皆様のご支援とご協力をよろしくお願ひします。